

我が国周辺における ロシア軍の動向について

令和8年6月
防衛省



ロシア軍の兵力及び予算

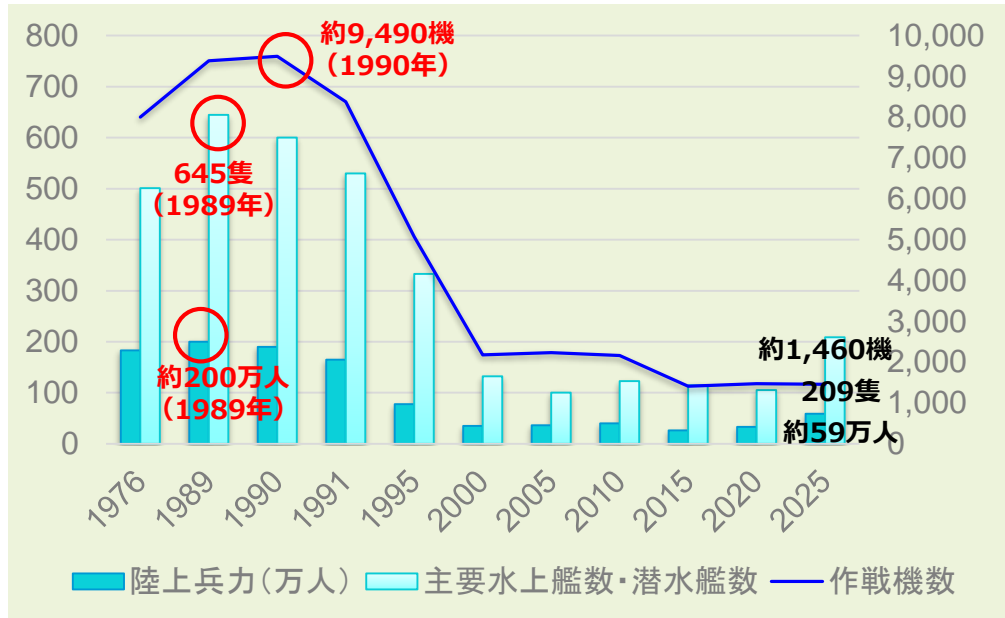
(資料源：防衛白書、Military Balance、露連邦国庫「連邦予算執行報告」)

- 旧ソ連崩壊後、ロシア軍の兵力は**大幅に削減**(旧ソ連時代のピーク時と比べて概ね2割程度)
⇒**師団中心から旅団中心の指揮機構へ改編する等、軍のコンパクト化を推進してきたが、ウクライナ侵略開始以降は、兵員数の増加や部隊編成の拡大改編を志向**する動きを見せている。
- 低迷していたロシア経済は国際的な原油高を背景に2000年頃から成長を続け、**国防費を増加**
⇒17年度以降は横ばいで推移していたが、**ウクライナ侵略開始以降、大幅に増加**してきている。

(陸上兵力(万人)、
主要水上艦・潜水艦隻数)

兵力

○兵力のピーク (作戦機数)



(※1) 1989年：陸上兵力・主要艦艇数のピーク

1990年：作戦機数のピーク

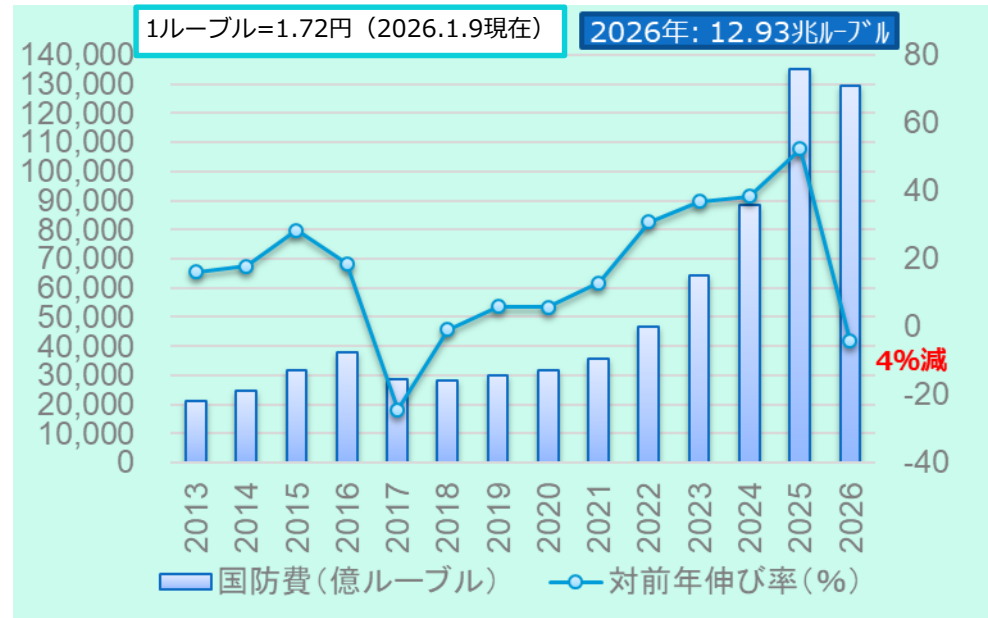
(1976年：51大綱策定時、1995年：07大綱策定時)

(※2) 「主要水上艦数」はフリゲート以上の排水量を持つ戦闘艦艇の数、「作戦機数」は輸送機、給油機等を除いた軍用機の数

国防費

(億ルーブル)

(対前年度伸率、%)



(※3) 2013～22年度は執行額、2023年度は9月1日時点の執行予算(暫定額)、

2024～2025年度は予算額、2026年度は当初予算額(出典：露連邦財務省公表資料等)

極東方面・北方領土におけるロシア軍の動向

(資料源：防衛白書、統幕発表、露国防省発表、各種報道等)

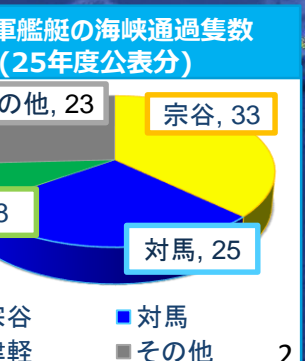
(Copyright©CSIS/DigitalGlobe 2018. 出典：Joseph S. Bermudez Jr., Heather A. Conley, and Matthew Melino. March 24, 2020. Ice Curtain: Why Is There a New Russian Military Facility 300 Miles from Alaska? CSIS. <https://www.csis.org/analysis/ice-curtain-why-there-new-russian-military-facility-300-miles-alaska>.)



北極海
★ウランゲリ島

アラスカ
★チュコト半島
★アナディリ (迎撃戦闘機)

ベーリング海
北極海航路



- ウクライナ侵略後も、北方領土を含む極東での**軍備強化**、**中国との共同活動**など**活発な軍事活動を継続**
- **核戦力を含む相当規模の戦力が存在**するほか、欧州方面と同様に**新型装備への更新が進展**

演習・訓練

- 大規模演習「**オケアン2024**」(24年9月) (国防省発表)
- **太平洋艦隊演習** (25年6月) (国防省発表)
- 海軍作戦演習「**7月の嵐**」(25年7月) (国防省発表)
 - ・太平洋、北極海、バルト海、カスピ海において、北洋艦隊、太平洋艦隊、バルト艦隊、カスピ小艦隊により実施
- **戦略核部隊演習** (25年10月) (国防省発表)
 - ・露西部プリゼツクからカムチャツカ半島にICBMを発射したほか、パレンツ海からSLBM、ウクライカのTu-95爆撃機がALCMを発射

部隊・装備の動向

- 16年**択捉島**及び**国後島**、21年**松輪島**及び**樺太**、22年**幌筈島**に**地对艦ミサイル**を展開
- 20年12月に**択捉島**及び**国後島**、21年2月に**樺太**に**長射程地对空ミサイル**を配備
- 21年以降、太平洋艦隊は「**カリブル**」**巡航ミサイル**を搭載可能な**水上・潜水艦**を配備
- 23年10月、露太平洋艦隊で**4隻目**となる**ボレイ級戦略原潜**が極東に到着
- 24年9月、露太平洋艦隊で**5隻目**となる**ボレイ級戦略原潜**、**2隻目**となる**ヤーセン-M級原潜**が、12月、**4隻目**となる**キロ改級潜水艦**が極東に到着
- 25年10月、露国防省が、**樺太**、**択捉島**、**国後島**及び**び得撫島**で**地对艦ミサイルの模擬発射**を実施した旨発表

航空機の活動

- **ロシア機**に対する自衛隊機の**緊急発進回数**は、過去5年間で**年平均約217回** (2020年～2024年度)
- 19年以降、**中国との爆撃機による共同飛行**を日本海、東シナ海、太平洋、チュコト海、ベーリング海等で実施
- 24年9月、**ロシア軍機**が一日に**3度にわたり日本の領空を侵犯**
- 26年3月、露国防省は、**空中発射型弾道ミサイル「キンジャル」**を搭載した複数の**MiG-31戦闘機**が日本海において**空中給油訓練**を実施を飛行した旨発表

艦艇の活動

- 21年以降、**中露艦艇**はわが国周辺、ベーリング海等で**共同航行**実施
- 24年9月、中国軍の演習「**北部・連合2024**」に露海空戦力が参加
- 25年2月～6月、太平洋艦隊艦艇が**長距離航海**を実施。**中東、南アジア、東南アジアの約10か国**に寄港、2国間演習等を実施
- 25年8月～9月、太平洋艦隊艦艇は、極東地域の各都市や北方領土に寄港しつつ**愛国活動「真実の力-2025**」を実施



極東ロシア軍の新型装備 (例)



太平洋

北方領土所在ロシア軍部隊

(資料源：防衛白書、露国防省発表、IHS Jane's各種報道等)

所在部隊

- ◆ **第18機関銃・砲兵師団**が、主に着上陸防御を目的として**択捉島及び国後島**に所在(同部隊の規模は約**3,500人**)

装備更新・施設整備

(肩書は全て当時)

- ◆ 北方領土には、戦車、自走砲、多連装ロケット、地对空ミサイル、ヘリなどが配備
- ◆ 2011年2月、メドベージェフ大統領は、セルジュコフ国防相に対して、「**クリル**」諸島(注)の**装備の近代化に必要な措置を取るよう指示**
- ◆ 2016年11月、地对艦ミサイル「バスチオン」及び「バル」部隊が、それぞれ**択捉島及び国後島**での任務に就いていることが、太平洋艦隊機関紙の報道により判明
- ◆ 2018年1月には**択捉島の新民間空港**が**軍民共用化**され、同年8月には同空港に**戦闘機(Su-35S×3機)**が**配備**された旨伝えられている。
- ◆ 2020年12月、択捉島及び国後島に**地对空ミサイル(SAM)システム「S-300V4」(SA-23)**が**実戦配備**された旨、ロシア国防省系メディアが報道※
- ※ 23年8月、同SAMが両島から消失している旨、各種メディアが報道

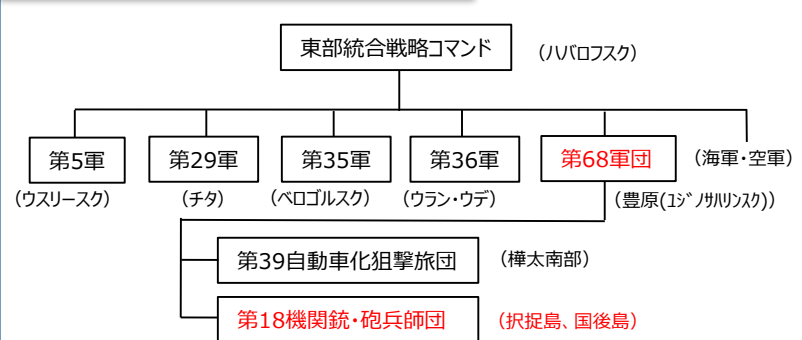
(注)露側の呼称である「クリル」諸島は、北方領土及び千島列島を指す。

択捉島・国後島における主な装備



第18機関銃・砲兵師団の位置付け

※東部統合戦略コマンドは東部軍管区の各軍を統合運用



ロシアから見た北方領土・千島列島の軍事的意義

(資料源：National Interest、ロシア通信、Soviet Military Power 1989、Google Map等)

- ◆ ロシア軍にとって、北方四島・千島列島における軍備強化は、
 - ・**戦略原潜の活動海域**として重要な、**オホーツク海**を防御するとともに、
 - ・ウラジオストク配備の主要水上艦を中心とする艦艇の**太平洋へのアクセス**を維持していく上で重要。
- ◆ ロシアは、**ウクライナ侵略**による通常戦力の損耗を補う観点から、今後より一層、**核戦力への依存**を深めていくと考えられ、引き続き、新型戦略原潜の配備や、これらを防護するため、北方四島・千島列島における軍備強化等(いわゆる「**バスチオン(要塞)**」**戦略**(注))を推進していくものとみられる。

(注) 米国防省は、その報告書「Soviet Military Power 1989」等の中で、旧ソ連が自国領土に近い海域において、地勢も利用しつつ、陸海空軍のアセットにより防護する戦略原潜の活動領域を「バスチオン」と呼称。戦略原潜が配備されている露北洋艦隊及び露太平洋艦隊は、それぞれバレンツ海及びオホーツク海を中心に「バスチオン」を設定するとされる。

我が国周辺におけるロシア軍の配置

※海氷のため、通常1月～3月にかけて宗谷海峡や択捉島・国後島周辺の海峡通過は困難



オホーツク海周辺におけるロシア軍の配備戦力 (※1)

| | 樺太南部 | 国後島 | 択捉島 | 得撫島 | 松輪島 | 幌筈島 (ばらむしるとう) | カムチャツカ半島 |
|---------|-------------|--------|--------|--------|-------------|---------------|--------------|
| 地对艦ミサイル | ○(21年) | ○(16年) | ○(16年) | ○(25年) | ○(21年) | ○(22年) | ○ |
| 地对空ミサイル | ○ | ○(20年) | ○(20年) | — | — | — | ○ |
| 地上兵力 | ○ | ○ | ○ | — | — | — | ○ |
| 水上艦 | — | — | — | — | — | — | ○(※2) |
| 戦闘機 | — (軍用飛行場あり) | — | ○(18年) | — | — (軍用飛行場あり) | — | ○ (対潜哨戒機も配備) |

※1下表中の「○」は配備・展開あり、「—」は配備・展開なしを示す。カッコ内は新規配備・展開年または特記事項
 ※2「カリブル」搭載可能なステレグシチー II 級フリゲート「グレマヤーシチー」は、22年ペトロパヴロフスク・カムチャツキーに配備